



第五十七号

外国人に聞きました

メルマガnoichi57号、今月のテーマは「外国人に聞きました」と題してお届けします。

開軒以来、雅楽之一稽古場では、時々外国人のお弟子さんをお迎えしてきました。

今回は、日本文化への関心が高い外国人のお弟子さんに、

簡単なインタビューを試してみることにしました。



私のお稽古場には、時々、外国人の方がいらつしやいます。日本に在住する、或は訪れる外国人には、共通して、日本文化への高い関心があります。自国文化への不知案内が指摘されている日本人とこのような外国人の差異は、一体どこにあるのでしょうか。私たちが外国へ行った時、その国の文化や歴史に興味を持ち、見聞を広めたいと思うのは、よくあることです。外国への留学経験がある人は、現地の文化や習慣に馴染もうと努力した経験があるのでしょう。しかし、そういった努力や経験が活かされるフィールドは、たいていの場合、「自分の国で」ということになります。私たち日本人は、アイデンティティーの拠り所を求めて、いつか日本へ帰ってくる習性があるように思えてなりません。日本人が日本を好む理由には、この国が便利であるとか、食事のこととか、電車が定時に運行しているとか、衛生面のこととか、そういう物理的な安心感も確かにありますが、もっと本質的な、精神的な拠り所として、私たちは日本の歴史・文化に自分の教養を高め、感覚を練磨できる真実があることを、私は信じて、自身の研鑽を積んでいます。

奥田雅栄之一

○ラウ・ドナ

奥田…ご出身はどこですか。

ドナ…香港の出身でアメリカ在住ですが、今は主人の仕事の関係で日本にいます。

奥田…日本には、どれくらいいますか。

ドナ…一年くらいです。

奥田…ドナさんのお子さんは、インターナショナルスクールに通っていますね。

ドナ…はい。子供はインターナショナルスクールの中学一年生です。

奥田…慣れない国で生活を送る中、どうして日本文化に興味を持ちましたか。

ドナ…日本文化は古くから伝わってきました。日本人は皆さん、それを大切にしています。綺麗で、素晴らしいと思っただけです。

奥田…今日わざわざお着物で来てくださって、嬉しかったです。素敵ですね。着付けは習ったんですか。

ドナ…はい、着付教室に通いました。

奥田…日本のお料理にも興味がありますか。

ドナ…はい。興味はありますけど…ちよつとまだ慣れない食べ物もあります。例えば、納豆。納豆は苦手です(笑)

奥田…んー、やはり納豆は苦手な人が多いですね(笑)

ドナ…はい。でも、納豆苦手な人は、日本人にもいますよね。

奥田…いますいます。特に西の方の人とかは、ほとんど食べないようです。

ドナ…そうなんですか!! 知らなかつたです。面白いですね。私は、日本語を勉強すればするほど色々な日本の文化に興味を持つてきました。

奥田…ドナさんは日本の楽器にも興味を持って、現在はお稽古に通っています。お箏を勉強してみて、いかがですか。

ドナ…面白いです。アメリカに住んでいた時に、実は中国のお箏「古箏」も勉強しました。でもテクニクが全然違いました。

奥田…全然違いますよね。それは、ドナさんが香港のご出身だから、中国の楽器を触つてみたいと思つたんですか。

ドナ…そうです。

奥田…日本は、他の国とは全然違う文化だと思っただけで、特に驚いたことはありませんか。

ドナ…皆さん協力する心を持つていることです。例えば東日本大震災の時、辛い時だけどもみんな助け合う気持ちがあつて、驚いたというより、本当に感心しました。

奥田…助け合う心ですね、それは日本人の底力だと思えます。日本で行つてみたいところ、あるいは今まで行ってみたい場所などはありますか。

ドナ…関西地方が好きです。食べ物がおいしかったです。実は先週名古屋と奈良、京都に行きました。

奥田…へえ、名古屋だと…名古屋城ですか。

ドナ…はい、名古屋城に行きました。あと、子供が忍者好

きなので、伊賀の忍者村にも行きました。

奥田：忍者村は、日本人の私でさえ行ったことがありません。奈良・京都はいっぱい見るところがありますね。

ドナ：はい。奈良公園、春日大社、嵐山に行きました。古い建物はとてもきれいです。

奥田：そうなんです。特に奈良は古い歴史が残されていて、私も大好きな場所の一つです。ところで、西洋楽器の経験はありますか。

ドナ：小さい時にピアノを勉強しました。

奥田：日本の楽器を触って、西洋楽器との大きな違いを感じることはありますか。

ドナ：三味線は特に日本の楽器だと思います。

奥田：どうしてそう思いますか。

ドナ：例えば今日、奥田先生に習った「サワリ」は、他の楽器ではない特徴だと思います。アメリカに「パンジョー」という楽器がありますが、震えて近い部分もあるんだけど、感じが違いますね。三味線の音楽を聴くと、必ず古いイメージが浮かびますね。

奥田：いずれアメリカや、香港に帰ったときに、日本の文化を勉強した経験を、どのように活かしていきたいですか。

ドナ：日本文化を知ること、例えば友達と話したりする時に、日本の見方が変わると思います。

奥田：日本の見方が変わる。

ドナ：はい。例えば、アメリカ人と話していると、日本はアニメ、車とか。でも、日本文化は実はとても深い。

奥田：古い歴史が保存されているからね。

ドナ：はい。

奥田：ドナさん、とても興味深いご意見をありがとうございました。これからも、楽しく日本文化をお勉強してください。

ドナ：はい。ありがとうございました。

○ヨアンナ・リピンスカ

奥田：ご出身はどちらですか。

ヨアンナ：出身はポーランドです。

奥田：どうして日本に来ようと思ったのですか。

ヨアンナ：今、私は日本で働いていますが、初めにポーランドの大学で日本文化学科に行きました。

奥田：日本文化学科。何を勉強するんですか。

ヨアンナ：日本語と日本文化とそれ以外にも、Anthropologyという科目があります。

奥田：Anthropologyって、人類学でしたか。

ヨアンナ：そうです。

奥田：へえ、人類学の勉強してたんですか。それは、人類



学で日本のことを勉強していたんですか。

ヨアンナ：はい。

奥田：どんなことを勉強するんですか。

ヨアンナ：えー、色々ですよ。日本人の宗教とか…。

奥田：例えば、神道と仏教、日本人は、二つが一緒に存在してききましたね。

ヨアンナ：はい。でもそれだけじゃなくて、日本人は、神道と仏教の違いが見えないですよ。

奥田：あー、見えないかも。

ヨアンナ：だから、どうして日本人はそういう風に神様を信じるか。

奥田：あーなるほどね。それは、すごく日本の大きな特徴ですよ。それで日本に来たのは、その勉強のために。

ヨアンナ：私の大学は、日本の大学と契約があつて、リサーチのために交換留学が出来るようになりました。

奥田：という事は、日本に来て何かリサーチしたつてことですか？

ヨアンナ：それだけじゃなくて、自分の日本語を高めるために。

奥田：日本語お上手ですもんね。

ヨアンナ：いえいえ、まだまだです。

奥田：それで、日本に来て、日本の何か古い文化、何かやってみたことはありますか。例えば着物をきるとか。お茶をやるとか。

ヨアンナ：お茶はまだ機会がなかったんですけど、着物を着るのはやりました。

奥田：それはどこで？

ヨアンナ：大学で、特別な授業みたいのがありまして、そこで着物を。

奥田：なるほど。これから、日本の楽器にも興味があるつてことで、大学の先生に相談したんですね。

ヨアンナ：大学の先生に、奥田先生を紹介していただきま

